

口腔顎顔面矯正学分野
特別講演のお知らせ

『難治性疾患に対する咬合外科：口唇裂・口蓋裂
や顎関節疾患にともなう咬合治療について』

日時：2023年7月6日(木) 18:00~19:30
場所：歯学部3階 講堂
演者：相川 友直 先生

広島大学大学院医系科学研究科
口腔外科学 教授

日本口腔外科学会 専門医・指導医
日本口腔科学会 認定医・指導医
日本口蓋裂学会 認定師
日本がん治療専門医機構 専門医 (歯科口腔外科)



講演抄録

外科的な咬合の復位あるいは構築は、外傷や腫瘍の再建外科においても基礎をなし、今日では顎変形症手術がその典型例として最も治療頻度が高い。難治性疾患の代表例は口唇裂・口蓋裂(CLP)に起因する咬合異常や顎関節疾患に起因する咬合異常であろう。

CLPでは、審美的障害、上顎骨の前後的・垂直的劣成長、幅径の狭窄、不整な歯槽形態、歯の転位・叢生、鼻咽腔閉鎖機能不全や構音障害など、その障害や問題の個体差はいまだに大きい。これに対しては上下顎移動術、MASDO およびSARPEを用いて対応している。当科の治療戦略と長期予後症例を提示するので、議論いただければ幸いです。

顎関節疾患のうち、下顎頭過形成に対しては下顎頭切除と円板整位手術を併用した外科的矯正治療で比較的容易に対応できるが、下顎頭吸収をきたす退行性病態の治療には困難を極める。保存的療法あるいは関節円板整位手術を併用した顎矯正手術による対応、さらに重度の病態に対しては人工関節全置換手術や肋骨肋軟骨移植などの顎関節再建手術を併用できるようになった。後者においては当科の新たな取り組みであり、症例を提示するので議論をいただきたい。

*本講演は、大学院医学研究科、医科栄養学研究科、口腔科学研究科の大学院特別講義ならびに、クラスターコアセミナー(骨・筋とCaクラスター)を兼ねています。

連絡先：口腔顎顔面矯正学分野 田中 栄二

(088-633-7357 内線5291) etanaka@tokushima-u.ac.jp